



3/1回 13:30~
17:30

愛知大学 豊橋キャンパス
センタービル111室

登壇者

高艸 賢 (千葉大学・社会学)

植村 玄輝 (岡山大学・哲学)

石川 健治 (東京大学・憲法学)

司会 酒井 泰斗 (会社員・行動科学史)

企画 吉良 貴之 (愛知大学・法哲学)

尾高朝雄 (1899~1956) は、戦後のノモス主権論争で知られる法哲学者ですが、1920年代からグローバルに活躍する知識人でもありました。尾高は「京都学派」の哲学を学び、欧州留学中、当時世界最先端の哲学である現象学を研究しました。1932年に公刊されたドイツ語の著書『社会団体論の基礎づけ』が、近年、日本語や英語に翻訳されたことをきっかけに、尾高の初期の著作に注目が集まっています。本シンポジウムでは、尾高の思想形成を三つの専門分野からたどることにより、後の文部省著作教科書『民主主義』にもつながる豊かな学問的背景を探ります。

総合統括 伊集院 利明 (愛知大学・哲学)

お問い合わせ先

愛知大学 人文社会学研究所

TEL 0532-47-4167 kira@vega.aichi-u.ac.jp

- 対面でご参加の場合、参加のお申し込みは不要です
- オンライン視聴をご希望の方はQRからお申込みください

尾高朝雄と 法の現象学

参加
無料



オンライン
同時配信

